

【居宅介護】

不足している支援や仕組みはどのようなものとお考えですか。

1	特に夜間、対象者宅への滞在型のサービスがほとんどなく、あったとしても費用面で高額になるので利用者負担が入所される程度以内ですむような支援・保険制度が必要と考えます。
2	認知症対応型通所介護、家族会
4	専門医も含む介護者の集まりを各地でお願いしたい
5	今まで対応していないので具体的にはわからないが、ボランティアや地域のサポートが必要。若年認知症に対して国・市の特別な支援(相談等だけでなく具体的な)、家族のサポートが必要と考える。
6	主治医に相談すると薬物の説明が主となるため介護者の気持ちを含め生活全般の助言を受けられる「サポートセンターしが」の様な医療と家族の調整役のような相談機関が各圏域にでもあればより相談しやすくケアマネも楽になれると考えます。
7	認知症に対応できる職員(認識不足、資質向上に対する取組み不足)地域に対する啓発活動不足(地域の人を受け入れてもらえるよう)
8	若年認知症のみを対象とした通所サービス等の施設があれば良いと思う。
9	若年認知症の場合はより一層かかわる支援のチームをきちんと作って家庭全体を支えられるようにしていく事が必要と思われる。金銭面での補助。
11	家族のみで抱えこんでおられるケースが多いと思うので、地域の方々にも関わりを持って頂いて本人や家族が安心して暮らせる支援を提供する事。
12	若年者を対象としたデイサービス。行政の若年認知症に対する啓発活動。
13	若年認知症のプログラムのあるデイ、ショートがほとんどないため困っている。
20	若年認知症の利用者がいないため、資料不足もあると思うが対象となるサービスが少ない。
22	若年認知症を専門的にやる施設が必要だと思う。また、家族にしても老人と違い、回復を期待されたり落ち込みなどもあり、家族を支えることも必要である。 (ex. デイサービス、デイケアでも週1~2日は若年者専門の日があってもよいと思う)
23	若い年齢に配慮されているサービス事業所が少ない。家族を支える仕組みが少ない。
24	若年認知症を理解してくれる施設が少ないので、理解できるよう学習会などを開いて理解者、受け入れ者を増やしていく必要がある。
25	家族への支援、健康指導、生活支援面へのヘルプサービス
27	・若年認知症の患者が少ないため、地域での介護家族の会等が成立しにくい。
28	・市内(近隣)には若年認知症の方という対象を絞ったデイサービスがない。(自分が担当している方は配偶者と車で市外の認知症デイへ通っておられる) ・高齢の方と共に過ごされて違和感を感じておられる方もいると思う。 ・専門医が少ない。また受診困難な方に対応し往診できる専門医がない。
29	専門医、認知症デイケア、家族への啓発・サポート
30	・家族への専門医からの十分なカンファレンス。不安ばかりが大きい。 ・若年の方が利用できる施設が少ない(デイサービスなど) ・若年認知症対応のデイサービスが近づく、ご家族の送迎負担が大きい。 ・家族に用事のある時はショートステイが利用できるようにデイサービスとショートステイが併設された認知症対応の施設を希望されているが無い状態である。
31	保健師へ相談したが、「介護保険を受けているから関われない」と言われた。精神病既往のある利用者の場合、特に地域の保健師の関わりは重要だと考える。
32	陶芸がやりたい、蕎麦打ちを習いたいなどの希望があった時に、探して利用できるような仕組みやシステム。
36	前問で述べたようにニーズの質が違い、ケア支援だけでなく、現有能力を生かして自立した生活をしたいと希望するので、そのための生活支援をするための資源(福祉資源ではなく、自立のための生活

【居宅介護】

不足している支援や仕組みはどのようなものとお考えですか。

	資源。生活意欲を支える資源などが少ない。
40	家族(地域内)において見守りの体制が少ない。
41	認知症のサービスの施設数とサービスの質と地域の一般住民の理解度など。
42	休日のサービス(例えば日曜日のデイサービスやショートステイ)ご家族の突然おこる不在時に対応してくれるサービス事業所があればありがたい。
43	本人・家族への経済的支援
45	・認知症の方にあった安心して利用できるサービス(通所サービス、短期入所) ・家族が気軽に相談できるところ。初期段階で家族が気付き、専門機関へ受診するための援助。 ・担当ケアマネが相談できるところ。(受け入れ場所をケアマネが1人で探さないといけない状況) ・開業医の認知症に対する理解の不足(専門医を紹介しない、意味がない等の発言がよくある)
47	・地域密着型の小規模多機能的な居宅介護施設 ・家族らの相談窓口や情報交換(共有)できる家族会など
48	地域の専門医療機関
49	介護者も若く、仕事と介護・子供の世話の両立が難しくストレスが大きい。相談窓口又はサロンのな一時預かりの場所の設置を望んでおられる。 認知症対応型ショートステイの充実。
51	サービス提供事業者が不足していると予想されます。
52	・保健指導部内 専門職の自宅訪問指導を定期的に行っていただきたい。(どちらかというと「SOS」が介助員から出てからが多かったので) ・地域との連携
55	受け入れ事業所の不足(平均年齢が違いすぎる)
56	・若年認知症の方を受け入れてくれるすべての施設。デイサービス、ショートステイなど事業所 ・若年認知症の方を理解できるだけのマンパワーの能力不足。
57	通所施設が若年認知症対応になっていない。
59	・若年デイが不足。 ・就労している会社も若年認知症を理解する。啓発活動をもっとする。 ・認知症の方だけでなく若い世代の人が集まれる場がほしい ・子育て中の世帯への家族支援(働く場所を確保) ・制度的な保障や年金などの保障が何も明らかでなく、ようやく介護保険を使えるのみの現状
62	・専門的知識をもつアドバイザーの養成 ・専門医及び専門医療機関が身近にあること ・介入者が正しい知識を持った上でチームアプローチする仕組み
64	・ストレッチャーのタクシーが必要だか空きがないと利用できない。 ・胃ろうのデイ、ショートを受け入れ制限があり自由に使えない ・若い人のデイがない(同年代とすごしたい)
66	若年認知症に限らず、時間延長が可能なデイがない。認知症の利用者を自宅に一人で置いておけないため介護者が仕事を切りつめるなど介護負担がある。
67	若年認知症の方に向けた通所介護があればよい。
68	・情報不足を感じる。 ・社会の受け入れ体制・基盤の整備、施設などの受け入れ先
69	・素早く対応できる仕組みの成年後見人制度、地域福祉権利擁護事業 ・認知症専門対応の短期入所施設 ・家族レスパイトケアの中でも家族への研修、理解度を深める公的サービス ・専門医療機関への受診がスムーズに行われるシステム

【居宅介護】

不足している支援や仕組みはどのようなものとお考えですか。

70	家族は責務として介護をしなければならないと思う場合が多く、その中でも日々不安感を抱かれていることがある為、悩んだ時気軽に相談できる窓口を増やし又周知できるような家族支援が必要。
71	デイサービスでも個々には対応が難しい。デイサービスを利用される方は高齢者で同じくらいの年齢層のデイサービスも欲しい。
72	医療との連携が難しい。主治医の先生との連絡が大変
74	・小規模多機能(現在在住の所にはない)。本人が安心した環境でデイサービスや泊まりができるのなら家族も安心する。 デイサービス、ショートステイが別の施設であれば本人も混乱する。 ・長期入所の受け入れ施設(経済的に配慮も必要)
78	利用できる社会サービスの種類、地域の理解度・受け入れ
79	若年認知症への適切なサービスメニューと診断対応ができる専門医療機関
81	地域の方の理解と支援がとても重要。認知症(若年)への理解、啓発に力を入れていくことが必要。
84	若年認知症の啓発
85	若年層の認知症者及び家族を支援する施設や支援組織が不足している。
87	高齢者とは当然ニーズも目標も違ってくるであろうから今の体制では難しい
90	“老人”の介護サービスは現状たくさん見られるが、若年はあまり無い。 今後、社会の中に多くの患者の発見を早める方法、行政によるサービスの増加や専門医、機関の増強及び制度の準備は必要と考える。
91	・地域の方や老人クラブの人へ認知症予防の教育が浸透し、認知症になった方や家族が阻害されやすい。予防重視の啓発活動は“認知症になっても安心して暮らせる”地域づくりには逆効果では。 ・認知症は誰でもかかる可能性があることを、きちんと暮らしの場でPRすべき。 ・周辺では専門医や認知症ケアサービスも充実しているが、つながり・ネットワークが機能していないのでは。 ・介護者の不安や心理的介護負担の軽減のための方策が必要では。 ・価値観を共有でき、いつでも気軽に相談できる場所。ただただ聞いてくれる場所等
92	認知症専門の受け入れ施設
93	認知症の方への医療現場での受け入れの仕組み、専門の通所系サービス事業所など。
94	若年認知症に対応できる通所サービス又は短期入所施設。専門医受診のための交通費
97	・重度認知症の方の受け入れショートが少ない。 ・小規模多機能の施設が少ない。 ・若年専門のデイサービス施設がほしい(近隣地域にない) ・専門外の医師の認知症に対する理解が乏しい。
101	認知症対応の短期入所施設が少ない。グループホームは高額すぎる。
102	本人や家族が病気に対して納得するまでに時間がかかる。身近な相談窓口がわかりにくい。包括支援センターやケアマネジャーに行くまでに、自分の住む町に相談支援できる仕組みがほしい。
104	・周囲の理解、周知。 ・個別の家族を含めたカウンセリング。
105	ターミナルまで利用できるサービスや、地域によるバラツキをなくす。
111	相談機関や受け皿が少ない。特に受け皿が皆無に近いと思う。
112	デイサービス等の通所系サービスでは年齢差があるため、話題や同じ年頃の利用者が少ない。若年専用の通所サービスの拡充が望まれる。
113	既存のサービスは高齢者中心であり、若年層向けのサービス体制の設置。
114	経済的な助成等の配慮。
115	地域に若年認知症の相談先や利用(受入)施設が少ない。他的高齢者と同じ利用になっている。

【居宅介護】

不足している支援や仕組みはどのようなものとお考えですか。

116	高齢者を対象としたサービスだけでなく、多様なプログラムを提供できる通所施設。 経済的な支援を含めた家族を支える施策。 軽度の方でも馴染みやすい通所施設。
117	・なじみの関係がある生活圏内の社会資源が少ない。 ・なじみの関係がマイナスに働くこともあり、自宅から適度な距離の社会資源へつなぐことが困難。 ・若年者対象の利用施設そのものの絶対数が少ない。 ・個別性に配慮した利用施設情報や施設利用時間以外の情報。
118	認知症専門のデイサービス等が不足していると思う。
121	・介護保険制度のシステム内のみでは受け皿が少ない。 ・本人の悩みを聞いてくれる機関がない。通院しても混雑していると貧乏ゆすりをする医者もいて、ゆっくり話も聞いてもらえない。
123	・地域の理解(一般的な認知症について等含む)。 ・若年認知症の方が利用しやすいサービス。認知症デイでも若いために充実感が得られない。 ・家族の支援。家族も若年であるため、家族のサポートも必要であると感じる。 ・本人の仕事への執着が強く、家事や地域のボランティア、デイでの活動では生活のハリが見出せない。デイにも通いにくく、家で過ごすことが多いため、家族の精神的な負担が大きくなる。 ・ショートステイが泊まれない。 ・活動的な方や就業でしか充実感が得られない方の就業やボランティア活動を支援するシステム。 ・家で過ごし、なかなか外へ出ない方の見守りや相談相手になるシステム。 ・家人不在時のショートステイが泊まれない方への夜間の見守りできるシステム。 ・サービスについては高齢者が多く、親子ほど年齢の離れた方の中に入るのはとけこみにくい。 ・作業所のようにアクティビティだけでなく、役割のある所、本人の能力差に対応できる所が必要。 ・若くして働き手を失った家族が安心して働きに出られる体制が必要。(介護保険は家族の見守りの上に成立しているため、限界がある。)
125	・家族支援。家族構成や状況に適切に合った家族をサポートできる支援。 ・家族が病気を受け入れて、家族として暮らしていけるような経済的支援。
129	認知症専用のショートステイ施設。
130	・従事者の知識、技術の向上。 ・利用者への経済的な助成制度。
131	現在のデイやショートは高齢者が多く利用しにくい。仲間作りが難しい。若い方の利用しやすい空間を確保したい。 全ての若年認知症の方が介護保険が使える。 住宅ローンの支払い免除はできないか。
134	・地域での見守りについて、認知症を理解してもらうことは難しい。 ・介護度が低く出るため、見守りサービスが充分に入らない。 ・後見人が決まるまでに時間がかかりすぎる。 ・サービスが入る前や行政が関わる前に多重債務を抱えていた。違法にはならないのか？
135	・介護者が抱え込んでしまうので家族のサポート、支援。 ・介護保険優先なため、介護保険ではまかなえないときのサービス体制。
136	知られたくない、わかってもらえない、今後に対しての不安などがあり、本人・家族だけでなく子ども(若いケース多い)への支援が必要な場合もある。
137	・経済的な支援、社会参加できる場所、支援、地域の理解 ・家族への指導ができる機関の機能が充分でない。 ・ほりおこしの段階で誰が相談相手になるのか？

【居宅介護】

不足している支援や仕組みはどのようなものとお考えですか。

138	<ul style="list-style-type: none"> ・急な介護者の体調不良等ですぐにサービス利用(例えばショートステイ)ができないときに対応できる地域・民間等のサービス。 ・認知症の早めの判断や対処が一般の方にスムーズに情報が伝わる、PR されるようなシステム作り。(困ったときやおかしいと感じたとき、どこに相談したらよいのか等)
139	若年利用者が安心して利用できるデイが少ない。
140	若年者のサービス事業所が不足しているため、本人のニーズに合わせた対応ができないこと。
141	<ul style="list-style-type: none"> ・若年認知症専門の施設サービス(短期入所等) ・若年認知症専門の作業所等
145	<ul style="list-style-type: none"> ・若年認知症の方のための専門の通所施設。 ・近隣に専門医がない。 ・通院介助(介護保険では身体介護が常時必要な場合は算定できるが、見守りがないと不安程度では自費になってしまう)。 ・趣味、何かを一緒に楽しむ、話し相手などが効果的と考えるが、サービスが見つかりにくい。
146	医療的な援助が必要と思われる方へグループホームや特養など入所施設の対応が不足していると思う。
147	若い人の多いデイサービス。
148	<p>若年の方は就労中の方が多いため、認知症になり仕事ができなくなってしまった状況になったときの本人や家族へのフォロー(経済的な面など)。</p> <p>現在のデイサービス等は高齢者が中心なため、若年の方が行くのをためらったりする。地域に1ヶ所でもよいので、若年中心のデイサービスなどがあるとよい。</p>
149	<ul style="list-style-type: none"> ・特養ホームの入所が難しい。 ・グループホームの利用料が高く、入所が難しい場合がある。 ・介護者も若く、育児との両立や知人の理解の難しさがある。 ・同じ立場の人との会話の場が必要。ホームページはあるが。
150	入院中に社会復帰に向けての何らかのアクションを本人・家族にしてもらいたい。例えば身体障害者の申請や訓練施設の紹介など退院してからでは遅すぎる。
151	施設での受け入れにしても年齢の幅が広く、例えば世代ごとのグループ分けやくりが必要か。
152	周囲の理解と医療との連携。医療より利用できるサービスの紹介。
154	<ul style="list-style-type: none"> ・若年認知症に関わるスタッフの知識を得るための研修・研修体系 ・若年認知症の理解を深めるための情報(一般市民向け) ・若年認知症と診断された方の経済的支援(本人の生計・家族の生計を立てるための支援・制度等) ・若年認知症を受け入れてくれるサービス…高齢者・障害者とは別のサービス ・若年認知症の方に個別に関わってくれるサービス
155	<p>状態が変化し安定しない方の支援はサービス事業所が尻ごみして利用を断られるケースがある。</p> <p>現在利用している事業所には協力的に対応してもらっているが、他の利用者との関係もあり、対応が困難になる可能性もあると思うし、どんな状態の方でも臨機応変に受け入れてもらえる制度を整えたい。</p>
156	宿泊施設…家族が急に介護できなくなったとき、一時的に徘徊が目立つ等移送サービス
157	<p>専門医の配置が少なく、なかなか受診に繋がらない。住民にとって身近でわかりやすい相談窓口があり、そこから受診に繋がもらえる支援があるとよい(地域包括支援センターへは行きにくい)。</p> <p>地元の大きな病院の老人神経内科、もの忘れ外来、脳外科など受診する前に気楽に相談できる窓口が設置されるべき。連携する専門医療も充実してほしい。</p>
161	・若年認知症を受け入れる施設が少ない。

【居宅介護】

不足している支援や仕組みはどのようなものとお考えですか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を支える体制が整えられない。 ・地域社会の理解と協力。 ・家族のケア支援。
163	<ul style="list-style-type: none"> ・特に本人が生計維持者の場合の社会保障及び公的扶助 ・子弟の就学に関する相談援助、経済的援助 ・若年認知症対象の社会資源 ・本人および家族への相談援助
169	<p>廉価で頼める実働部隊が絶対的に不足している。</p>
170	<p>医療依存度の高い利用者の通所や短期入所サービスを利用できる施設が少なく利用しづらい。</p>
171	<p>以前本人が若いことで他の高齢利用者とデイや施設で一緒に過ごすことに抵抗を感じ、また動きが早い徘徊で職員がつきっきりになるためスムーズな利用が難しかったケースを目にしたことがある。若年認知症対応のデイ等施設の充足があれば、本人も家族も安心した日常生活を過ごすことができるのではとそのときに考えた。</p>
173	<p>若年認知症専門のサービス事業所(デイサービス、ショートステイ等)が不足していると思う。また、介護者(家族)がどこに相談すればよいのかわからないのではないかと。</p>
174	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時のショートステイが取りにくい。 (慣れた環境での対応が望ましいが、ショートは常にいっぱいであり、3ヵ月先に予約を取っている現状では、緊急時に申し込んでも受け入れてもらえない不安がある。) ・初期利用者(デイサービス、ショート、ヘルパー等)に対し職員が張り付いて対応できる人員補充。
177	<p>若年の場合は特老の入所は年齢差があり、なじみにくいと思う。グループホームを探すが、帰宅願望があったり、料理が作れなかったり、で共同生活ができないと言ひ、断ることも多い。体制が不十分だと思う。</p>
179	<ul style="list-style-type: none"> ・若年認知症の方が通所する施設サービス(専門的なもの) ・専門医 ・家族支援サービス
183	<ul style="list-style-type: none"> ・若年認知症の人が利用できる通所やショート。高齢者対応が多く本人が行きたがらない。 ・訪問介護員等に対しても若年性認知症の研修が必要だと思う。 ・本人が若年認知症であると、介護者は仕事をもっているため、留守中の安否確認等のボランティアが必須。保険ではまかなえない。
184	<p>若年層対応のサービス事業所</p>
187	<p>若年期の発症であるため家族への精神面や経済面でのサポートが重要である。介護保険制度では特定疾病に指定されているため公的サービスを利用することが可能であるが、そのような周囲を取り巻く全体を支援する(相談する)窓口がない。また、知られていない。受け皿としての在宅や施設サービスでも高齢者の利用者が中心のため、症状を正しく受け止め対応できるサービス機関が少ない。</p>
190	<p>24時間対応(特に夜間)</p>
193	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉の現場にももっと多くの人材を置き、利用者個人個人の自己実現を図ることが大切である。
194	<p>地域(自治会単位)の中に民生委員とは別に担当者を設置し、その担当者が中心となり、地域の中でどう対応していくかといったことを考えていくような仕組み。(地域で支えていく支援がまだまだ不足していると考えられるため)</p>
195	<p>若年認知症のサービスが少なく、対応できる支援・仕組みが整備されていない。</p>
203	<p>生活支援、職業支援</p>
207	<p>家族への勉強会などのサポート</p>